



さい帯血情報

さい帯血を用いた脳性麻痺の治療研究において、 拡大アクセス制度がヨーロッパでも開始されました

このたび、さい帯血細胞を用いた新たな拡大アクセス制度(Expanded Access Protocol; EAP)がヨーロッパで始まりました。

脳性麻痺と診断を受けているお子様で、そのご本人のさい帯血がFamiCord社(プライベート臍帯血バンク)に保管されている場合に、このプログラムに参加することができます。当面は、FamiCord社の保管者が対象となりますが、今後、他の(★さい帯血バンクを利用している★)脳性麻痺の患者にも投与の機会が広がる可能性があります。

さい帯血を用いた脳性麻痺の治療研究における最初のEAPは、米国デューク大学において、2017年10月より開始されました。デューク大学のカーツバーク博士は、2019年9月の学会講演において、これまでに320人以上の子どもたちがこのプログラムを通じて投与を受けたと述べています。

今回のプログラムは、デューク大学に次ぐ世界で二つ目のさい帯血を用いたEAPです。ヨーロッパ最大のさい帯血バンクであるFamiCord Groupによって2019年10月に開始され、自家さい帯血をFamiCord社で保管している方々が優先的に投与を受けることができます。細胞の投与は、ポーランドのルブリンにあるUniversity Children's Hospitalで行われます。これまでに、14名のお子さんが投与を受けています。

FamiCord社は、保管者に保険サービスを提供しており、そのサービスの利用者は、EAPにかかる費用がカバーされ、投与を無料で受けることができます。

FamiCordグループは、さい帯血を保管しているヨーロッパの全ての脳性麻痺患者がEAPを利用できるように、ポーランド内の投与病院の開設や、参加費用の設定、登録プロセスを検討していますが、その際は、さい帯血をポーランドのFamiCord研究所(PBKM)に移す必要があります。

